

CONCIERGE

by Mochimaru shokuhin Co.,Ltd. 9/Apr/2018/vol.488

あやめの花（福島県産 徳島県産） Siberian iris

毎年端午の節句(こどもの日)が近づくと、花菖蒲やあやめの花を菖蒲の葉と生けて五月人形とともに飾り、健やかな成長を願うといった光景を良く目にします。ドイツやフランスではジャーマンアイリスという同じ系統の植物があって、その姿が髭に似ていることからピアテット(ひげ)・アイリスなどと呼ばれて親しまれています。日本でのあやめの花言葉も「良いメッセージ」、海外でも「信頼」や「情熱」という花言葉もあって、好まれている花であるということも見受けられます。花菖蒲に比べ、細く可愛い面持ちのあやめの花。花の色の紫は、一番高貴な色とも言われ品格や力強さも感じる事が出来、何とも艶やかでピロードのような花弁は少し抒情的でもあります。春から梅雨にかけて、水の近くで咲く花菖蒲、比較的水はけの良い場所で咲くあやめは姿こそ似ているもののその生態は違いがあります。似ているためによく混同してしまいがちな花でもあります。わかりやすいのはあやめの花には花弁の弁元に網目状の模様があります。これからの季節は、気温も上がり初夏を感じる時期でもあります。雨の中でしっかりと咲く紫色の貴婦人と形容もしたいほど、スツと真直ぐに伸びて先に美しい形状の花を湛えるあやめの花は、和食でももちろんのこと洋食でも日本の四季をも感じさせる風流なあしらひとして、すこし大人の雰囲気をもトッピングしてくれそうです。(蕾の状態でバックに入っております)